

第5学年の実践

上野智敬

【単元名】「構成や表現を工夫して書こう」

【教材名】「物語を作ろう」(光村図書 5 年)

1 学級の実態

- ・ 文章を書くことはすきである。
- ・ 指示されたことしか動こう・考えようという思いがない。
- ・ 自分の考えていることを文章に表すことが苦手である。
- ・ 考えて行動することが苦手である。
- ・ 「書く」ことが好きな児童が多い。
- ・ 自分の考えに自信がもてない
- ・ 自分の考えをあまり持つことができない。

2 活動目標

相手意識	目的意識	場面意識 (公/私)	ジャンル
読み手	想像したことを書こう	私的	物語

3 学習目標

(1) 態度目標

自分が想像したことを、獲得した言語を使って伝えることができる。

(2) 価値目標

自分自身の言語生活を振り返り、表現や構成の効果の工夫をすることができる。

(3) 技能目標

- 表現の効果などについて確かめたり、工夫したりすることができる。
- ◎ 目的・意図・相手を意識して、文章全体の構成を考え、自分の考えを表現することができる。

(4) 技能目標一覧

月	単元	教材	ジャンル	課題	取材	論理	構成	記述	推敲	交流
6	活動を報告する文章を書こう	次への一歩 — 活動報告書	報告文		○		◎			
10	理由づけを明確にして説明しよう	グラフや表を引用して書こう	意見文			◎	○			
12	本は友達	わたしたちの図書館改造提案	意見文		◎					○
2	構成や表現を工夫して書こう	物語を作ろう	物語文					◎	○	

4 単元構成図

単元名・教材名

構成や表現を工夫して書こう（物語を作ろう）

（光村図書 5 年）（総時数 7 時）

学習の活動目標

学習目標

第 1 次（時）

※ 《》 は評価規準

7 枚の写真の中から 1 枚を選び、写っているものやそのものの様子について想像をふくらませる。

そのものの様子を表す言葉、それぞれから連想される言葉のイメージマップを作り、写真に対するイメージを豊かに想像できる。
《1 つの写真から様々な表現をすることができる。》

第 2 次（時）

物語の書き方を理解し、書く準備をする。

物語の大まかなイメージや構成を思いうかべることができる。
《進んで構成を考える。》

材料を集めて整理し、必要なものを選ぶことができる。
《必要な情報を取捨選択している。》

第 3 次（時）

物語のあらすじを考え、表現を工夫して物語を書く（本時）

目的・効果などを考え、文章の組み立てを考えることができる。
《効果的な構成ができる》

物語の構成に気づき、文章構成を工夫することができる。
《記述表現を工夫し、伝わりやすい文章を書くことができる》（本時）

第 4 次（時）

作品を読み合って感想を伝え合い、学習のまとめをする。

友達と作品を読み合い、お互いの良いところを見つけ、相手に伝えることができる。
《友達の良さを見つけることができる》

5 学習活動と指導の実際

第一次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

①学習内容

7枚の写真の中から1枚を選び、写っているものやそのものの様子について想像をふくらませた。(1時間)

②指導内容

教科書の中に提示されている「桜」の写真からイメージマップを作成させた。そこで出てきた「わくわく」「うきうき」などの感情を表現する言葉や、「入学式」「新学期」など言葉を使って物語を作っていくことを確認した。その後、教科書中の7枚の写真から、自分がイメージマップを作成したい写真を1枚選ばせ、そこからどのようなことがイメージできるかを書き出させた。

第二次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

①学習内容

物語の書き方を理解し、書く準備をした。(2時間)

- (1) 物語の大まかなイメージや構成を思いうかべた。
- (2) 材料を集めて整理し、必要なものを選ぶことができた。

②指導内容

- (1) 前時までにしたイメージマップをもとに、物語の登場人物・時間・場所などの細かな物語の設定を決めていった。写真からのイメージがあるために、同じ写真から選んだ児童は、内容が似通ってしまっていた。そこで、自分が読んだことのある物語を想起させ、時間軸や人物像に変化を持たせるよう指導した。
- (2) 自分が考えた物語の設定を見直し、イメージマップと連結させて考えさせた。その中で必要な言葉や表現を取捨選択し、選択した言葉からさらに想像をふくらませていかせた。

第三次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

①学習内容

物語のあらすじを考え、表現を工夫して物語を書いた。(3時間)

- (1) 物語のあらすじを考える(1時間)
- (2) 表現を工夫して物語を書く(2時間)(本時)

②指導内容

- (1) 前時まで考えた流れを元に、起・承・転・結の流れを意識させ、物語のあらすじを書いた。必ず「何が起きたのか。」「どのように進んでいるのか。」「どんな変化があったのか。」「最後はどうなるか。」ということをはっきりと意識して書くようにさせた。

- (2) 物語文の既習事項を生かし、読み手を引きつけるための書き出し文の工夫をしたり主人公視点や常体の形で書くなどの記述表現を工夫したりして物語を書いた。

第四次

①学習内容

作品を読み合って感想を伝え合い、学習のまとめをする。(1時間)

②指導内容

グループで作品を読み合って感想を伝え合い、作品紹介をした。学級全体の場でも数点の物語を紹介し、聞いてどのような感想を持ったか、書いてどのような感想を持ったかを確認し、学習のまとめをした。

6. 授業の実際

授業1 記述の指導について

(1) 授業の計画

<p>教師の手だて</p>	<p>【本時でつきたい力】</p>	<p>児童の意識の流れ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 文章の形態にあった表現をすることができる。 	<p>友達が読みたい物語って何だろう。</p>
<p>場面設定や書き出し文の工夫の確認。</p>	<p>【本時の言語活動】</p>	
<p>学級文庫や教科書の文を参考に、物語文の書き方をイメージさせる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書き出し文を書く。 物語本文を書く。 	<p>書き出し文に気をつけて書こう。</p>
	<p>【本時の活動計画】</p>	
	<p>① これまでの学習を想起する。</p>	<p>友達の文章の良かった表現を真似して、次に書いてみよう。</p>
	<p>② あらすじを読み返し、書き出しの工夫の確認をする。</p>	
	<p>③ 本時の目当てを知る。</p>	
	<p>書き出しを工夫して、物語を書こう。</p>	
	<p>④ 物語文を書く。</p>	
	<p>⑤ グループで交流し合う。</p>	
	<p>⑥ 本時のまとめをする。</p>	

(2) 授業の実際

① これまでの学習を想起する

自分が読んできた物語や、教科書に登場した物語文を振り返り、読み手が読みたくなる文章はどんなものかと考えるようにした。自分が読みたい物語はどんな物語だろうと置き換えて考えるようにすると、「タイトル」と声をあげる児童が多く、ついで「最初の文章」という言葉があがった。

② あらすじを読み返し、書き出しの工夫の確認をする。

③ 本時の目当てを知る。

そこで、物語文とは違うが、「理由付けを明確にして書こう」の単元で学習した「根拠をしっかりと書く」や「理由をはっきりさせる」などの「書き出し文の工夫」を想起させ、あらすじを読み返させた。物語文の場合に置き換え、「結末を先に持ってくる」や「時間軸を変える」などの読み手を引きつける工夫に気付かせ、目当ての確認をし、学習に取り組んでいった。

④ 物語文を書く。

細かい物語の設定やあらすじを、前時までに考えたり、書いたりしていたため、スムーズに文章に取り組むことができていた。しかし、どのようなことを書いたらよいか分からず、10分～15分何も手つかずになっている児童もいた。どのように書き出しを書いたらよいか分からない児童には、教科書や学級文庫の物語文を見せ、再度イメージの構築をはかった。文章を書いているときは、文章を書きながら「どうしたらおもしろくなるか。」「どうしたらミステリアスになるか。」という言葉をつぶやきながら、楽しそうに物語を作っていた。また、「これでいいかね。」と隣の子ともと練り合いながら、書くことに取り組んでいた。

【書き出しの変化の事例】

《前》

- ・ある町に〇〇という探偵がいました。
- ・とても天気の良い日になりました。
- ・ある所に〇〇という国がありました。

→

《後》

- おれは〇〇。この町で一番の探偵だ。
- 今日は絶好の昼寝日和。
- 森の中のそのまた奥に、〇〇の国がありました。

⑤ グループで交流し合う。

グループで文章を読み合う場面では、最初は友だちに見せるのを恥じらっていることが多かった。しかし、1度読み合い始めると、「ここはどういう意味。」や「この書き方がおもしろいね。」などの声があがった。相手の文章をじっくりと読み、積極的にわかりにくいところを質問したり、書き方の助言をしたりして、交流することを楽しんでいた。

⑥ 本時のまとめをする。

友達の文章を読み終えると、一様に刺激を受けたようである。次時につなげるときにも、「次はもっとわかりやすく書こう。」「真似しよう。」など、意欲付けをしていた。あまり文章を書くことができなかった児童も、「この書き方が好き。」「主人公を冒険させよう。」書き進めるための重要なヒントをもらったようである。

7 実践のまとめ

(1) 成果

価値目標

自分自身の言語生活を振り返り、表現や構成の効果の工夫をすることができる。

今まで自分が触れてきた物語の書き方を生かし、表現や構成の工夫することができた。

態度目標

自分が想像したことを、獲得した言語を使って伝えることができる。

イメージマップを書き、出てきた言葉を生かして物語に表現することができた。

技能目標

- 表現の効果などについて確かめたり、工夫したりすることができる。
- ◎ 目的・意図・相手を意識して、文章全体の構成を考え、自分の考えを表現することができる。

- 書き出し文を工夫して、相手を読みたくくなるような文章の構成をすることができた。
- ◎ 読み手を意識し、常体と敬体を分けて書くなど、自分の考えたことを素直に表現することが出来た。

(2) 課題

- ・ 教科書の物語のイメージが強く、似たような構成をつくるが多かった。
- ・ イメージマップを生かし切れず、物語に広がりをもたせることができない児童が多かった。

(3) 単元を終えて

今までジャンル別に分けて単元構成を考えることをしていなかった。今回は「書くこと」に単元を絞り、構成していくことで授業の組み立てがわかりやすくなっていった。自分の中でも、系統立てていくことで子どもたちに意識してもらいたいところを、絞って伝えられたのではないかと思う。

しかし、子どもたちの中で、印象に残っていたことは、物語文の「記述表現」ではなく、「文章構成」であった。直前の「わらぐつの中の神様」の学習では、構成に目を向けることが多かったためと考えられる。改めて思考の流れをつくる難しさを感じた。